

昔懐かし、『茅戸羽』を編んで雪囲いにするのを見た！

11月となり雪囲いの季節、それぞれの家で工夫し、家を雪から守るのに面々と伝統を受け継いで今でも実施している雪囲い方法を紹介합니다。



これは天井ですがその下に吊り下がっているのが『こも台』で刈ってきたスサキ（茅）を編み込む台です。



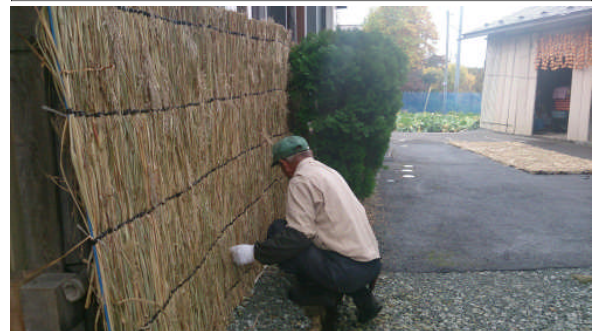
さらに『こも台』だけでは編めないのも木で作った編み棒で名称は『こも石』と言います。



編み上がった『茅戸羽』で長さ 4m 幅 1.4m あります。



編み上がった茅戸羽を雪囲いに設置している状況でこの場合は窓がらゝを保護するために設置



戸羽が重いため、微調整を実施している状況



設置完成

この貴重な作業には刈を野山から刈って編むという一連の作業は今ではどこを探しても見られません貴重な作業です。さらに道具も昔は各一戸毎にあったのに今はどこに残っているのか家が新しくなっているのでないに等しいと思います。